

国際理解講座「日本とオランダ～日蘭関係412年～」

平成23年10月14日(金)中央公民館にて、元日本国大使館公使参事官で市民の
まつもと たかし
松本 俊さん を講師にお招きし、その貴重な経験をお話ししていただきました。

【オランダとはどういう国か？】

(1) 政治

◎ ベアトリックス女王

ベアトリックス女王は、1938年1月31日生まれで、講師と同級生である。大変な親日家で、王女時代には5回ほど日本を訪問した。1991年にオランダ元首として初めて訪日された。2000年には、日蘭交流400周年を記念して、天皇・皇后両陛下がオランダを訪問された。



国旗の色は、上から
「あか・しろ・あお」

◎ インドネシア人、トルコ人、モロッコ人

オランダには、インドネシア人、トルコ人及びモロッコ人が大勢住んでいる。インドネシア人は、1945年にインドネシアが独立した時に、政治的理由からアンボン人（南モルッカ）を中心としてオランダに移住した。トルコ人は1960年代前半から、外国人労働者としてオランダに移住し、現在40万人から50万人はいるとされている。モロッコ人は、1960年代後半からオランダに来ており、約35万人いると言われている。トルコ人とモロッコ人はムスリム（イスラム教徒）であるが、現在オランダ社会では、これらのイスラム教徒との共存の難しさが大きな問題となっている。

(2) 経済

◎ ワッセナル協定

戦後、オランダでは、政労使三者のトップレベルでの話し合いで、全国レベルの賃金や労働条件が設定されるようになっていく。オランダも英国同様、「オランダ病」に悩まされた時期があったが、1982年にはハーグ郊外のワッセナルで、政労使間協定が結ばれ、再び協調路線に戻る事ができた。

◎ ワークシェアリング

ひとつの仕事を複数の人で分け合うことで、自分の勤務時間外のことに対しては無責任となり引き継ぎが難しい等の問題もある。

(3) 社会

◎ 柱状社会

オランダ社会では、プロテスタントやカトリックの家に生まれれば、それぞれ決まった学校に通い、決まった新聞を読み、結婚も同じの人同士でというようにして、お互いに認め合って平和に暮らすと

いう柱状社会が特徴としてある。この柱状社会は、1970年代からだんだん崩れはじめてきているようだが、まだ名残りがあふ。ただし、イスラム教徒との共存は難しい面もあるようだ。

◎ 同性婚

オランダでは、14～15歳くらいから性体験をする人が多く、17～18歳くらいから実家を離れて独立する。そのため、同棲や事実婚の人が多い。日本では結婚はスタートというイメージだが、オランダではゴールに当たる。とは言っても、離婚が少ない訳ではない。結婚する際に、離婚した時のため財産分与について契約書を作るカップルもいる。旅行なども夫婦別々で行く時には、それぞれの収入で賄うようだ。また、同性愛に対する考え方も寛容で、2001年4月に同性間の結婚が法律で認められた。

◎ 麻薬《ソフトドラッグ》

マリファナ欲しさに犯罪を犯す青少年が増加したこともあり、犯罪者数を減らす策として合法化された。スペインやフランスなどの隣国からの評判が悪いこともあり、今は国籍・販売地域・販売場所・量が制限されている。しかし、より刺激の強いハードドラッグに走る人も増えてきているため、麻薬の取扱いは過度期に来ている。

◎ 安楽死

2001年に法制化された。オランダ人のみ適応される。家庭医制度があり、このかかりつけの医師と、別のもう一人の医師の判断により、耐えがたい苦痛の場合にのみ対応。2007年には2,120件、2008年には2,331件の安楽死の実施が報告されている。これは、日本でも社会問題となっているが、オランダでも自殺者数が多いことが背景としてある。安楽死は、アメリカでは2～3州のみ、隣国のベルギーでも認められているようだ。

◎ その他

オランダには国際平和を祈念して、国際司法裁判所がある。現在、小和田恒さん（雅子皇太子妃の実父）が日本所長をしている。他にもハーグには国際刑事裁判所や、旧ユーゴ（コソボ・サラエボ）の紛争問題の解決を目的とした国際裁判所がある。

【日蘭関係412年】

（1）デ・リーフデ号

「デ・リーフデ」とは慈愛という意味。1598年、オランダのロッテルダムから5隻の船が東方に向けて出航した。デ・リーフデ号の他には「信仰」、「信頼」、「希望」、「福音」という名前が付けられていた。結局、大分県に難破の状態に着いたのは、デ・リーフデ号1隻だけだった。

（2）平戸商館

1609年、徳川家康が朱印状をオランダに渡して、正式な貿易が始まり（それ以前から、事実上貿易はあったが）、平戸（長崎市北部）に商館が建設された。1635年、徳川家光が鎖国令を発しポルトガル人を一切排除、中国人とオランダ人のみが残った。ポルトガル人は、拠点を出島（長崎市南部）に移すことになった。

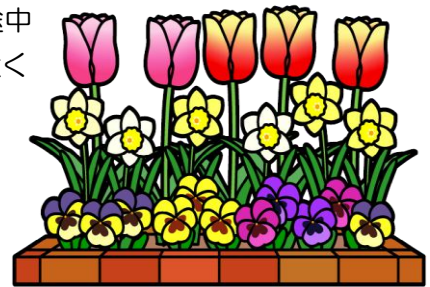
(3) 出島

出島の広さは、約15,000平米。東大和市役所と公民館と図書館を合わせた面積よりもおそらく狭い。1941年、日本はこの出島の敷地内に限り、オランダ人が商売することを許可したが、宗教的な活動は一切してはいけなかった。出島には原則日本人は行ってはいけなかったが、丸山の芸者さんは行っていた。一方、オランダ人は当初は出島から出ることを許されなかったが、丸山の遊郭に行っているオランダ人もいたようだ（ただし、料金はべらぼうに高い）。

(4) 江戸幕府

出島には、商館長と副商館長、倉庫担当、会計担当等総勢10人前後のオランダ人が居住していた。彼らは年に1度、日頃貿易をさせてもらっているお礼としてお土産を持参し、参勤交代のように江戸に行かなくてははいけなかった。

出島から江戸までは、往復で3か月くらいかかっていたようだ。途中から船に乗っていった。江戸での定宿は、現在の中央区日本橋の近くにある長崎（ながさき）屋という宿であった。



(5) 風説書

出島にいるオランダの商館長は最初のうちは毎年変わっていた。商社の本拠地がインドネシアのジャカルタにあり、商館長はそこからヨーロッパを中心とした世界情勢に関する報告書を持ち帰っていた。それをオランダの通訳グループがすぐ和訳をして、日本も情報を得ていたようだ。

例えば、黒船が来た時には、日本人が恐怖のあまりお茶も飲めないほどであったと言われていたが、実のところは、オランダからペリーという人が来るという事は事前に聞いていて、日本としてどうするのか協議をしていたようだ。

(6) ウィレム2世

1789年のフランス革命により、ヨーロッパ全体の混乱が起こり、1815年のウィーン会議で落ち着いてきた。オランダは、1830年くらいに独立国として認められた。国王ウィレム2世は、鎖国をしていた日本に対して、世界情勢から見ると、そろそろ開国した方が良いのではという忠告をした。鎖国によって利益を得ていたオランダが、何故わざわざ開国を勧めたのかについては不明である。

(7) 1858年の友好通商条約

1856年、日本とオランダは日蘭和親条約を結んでいたが、具体的な活動が行われていなかった。そんな中、他国も日本にプレッシャーを与えてきたため、1858年、オランダは、アメリカ、英国、フランス、オランダ、ロシアとともに日本と友好通商条約を締結した。オランダを除けば、その顔ぶれは現在でも大国ばかりである。

(8) インドネシア

インドネシア人にとっては、オランダ人は支配され酷使された憎い存在であるが、その後に侵攻してきた日本人に対しても良い印象は持っていない。講師がインドネシアのスラバヤに総領事としていた際に、建国記念日の式典に招かれた。式典で整列する様は日本軍の仕方そのものであった。日本軍の中には、インドネシア人と結婚して、オランダ軍と戦い『英雄の墓』に葬られている人もいる。日本とオランダとインドネシアとは過去にそのような歴史があるが、この3国は、そういった事を踏まえてこれからも仲良くやっていかなくてはいけない。

(9) 戦後処理

日本軍はオランダ占領時代に、多くのオランダ軍を捕虜にしている。軍人だけでなく女性や子どもも含めた民間人を強制収容所に入れてしまった。その補償問題は未だに続いている。日本政府は、サンフランシスコ平和条約で解決済みとしているが、道義的責任から、20年程前には関係したオランダ人を日本に招待したり、日本軍が進駐した際にできた現地の女性との子どもの父親探しなども行っている。

オランダが、日本から多額の賠償金を要求しようとした際に、アメリカが今の日本にはとても払える状況にないと諫めた経緯がある。日本は、戦犯で捕まっていた日本人をなるべく早く釈放させるために協定を結び、オランダに1千万ドルを見舞金として払った。

(10) 1971年10月 昭和天皇のオランダ御訪問

1971年10月に、昭和天皇がオランダを御訪問された。講師は当時オランダではなく南アフリカに勤務していたが、特別に出張命令が出て御訪蘭のお手伝いをした。インドネシアから帰ってきた旧オランダ兵が御車に魔法瓶を投げつけたり、ホテルオークラの前で日の丸を燃やすなどの抗議があった。

2000年、日蘭関係400年を記念して、現在の天皇陛下がオランダを訪問された。その際には、ベアトリックス女王もほぼ付きっきりで行動された。これで日蘭関係のわだかまりも解けたのではないか。

【その他】

◎ 文化について

オランダと日本との文化交流という面では、2つの分野が上げられる。1つは柔道。1964年の東京オリンピックではオランダ人のアントン・ヘーシンクが、初めて日本人以外のチャンピオンとなった。

そして、もう1つは囲碁。講師が2回目の在オランダ大使館勤務時、文化担当として囲碁の普及のお手伝いをした。囲碁を世界中に広めるため、南米・北米・ヨーロッパの3大陸に囲碁センターを設立するという話が持ち上がった。ヨーロッパは最初フランスかドイツかという話だったが、ドイツに作るとフランス人は行かないし、フランスに作るとドイツ人は行かないと説得し、オランダのアムステルダムにヨーロッパの囲碁センターを設立することになった。

2010年、南アフリカでサッカーのワールドカップが開催された。オランダは、日本を目指す途中、インドネシアのジャカルタ、そして南アフリカのケープタウンを中継地として水や野菜を補給していた。その影響で、アフリカーンス語（南アフリカの公用語）はオランダ語を基礎としているため似通っている。オランダ語とアフリカーンス語の違いは、英語は主語によってbe動詞（例えば「I am」、「You are」のように）が変わるようにオランダ語も動詞が変化するが、アフリカーンス語は変化しない。オランダ人は、アフリカーンス語をchildish（子どもっぽい）と呼んだりするが、言語学的には簡単な方が進んでいるとされている。

ワールドカップの決勝はオランダとスペインだったが、その昔スペインに支配されていたオランダ人にとっては、興味深い一戦だったと思う。オランダには、ライデン大学という学校がある。この学校は、その昔、攻めてくるスペイン人を追い返したご褒美として設立されたもので、記念日には「フットスポット」という煮込み料理や、生のニシンにたまねぎを刻んだもの等を食べる。地酒のジェネーバ（ジン）と一緒にいただくと美味しい。